

高等学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

| | | |
|-----|---------------|----|
| I | 研究主題設定の理由 | 1 |
| II | 研究の視点 | 3 |
| III | 研究仮説 | 4 |
| IV | 研究方法 | 4 |
| V | 研究内容 | 6 |
| 1 | A高校（ホームルーム活動） | 6 |
| 2 | B高校（生徒会活動） | 9 |
| 3 | C高校（生徒会活動） | 12 |
| VI | 研究成果 | 15 |
| VII | 今後の課題 | 16 |

| | |
|------|--|
| 研究主題 | 意図的・計画的な話し合い活動を図る取組と評価の充実 ～集団活動の中で資質・能力を育むための意思決定と合意形成～ |
|------|--|

I 研究主題設定の理由

1 研究主題設定の背景

平成 30 年 3 月に学習指導要領が改訂され、各教科・領域において「三つの資質・能力」に整理され、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。このような中、本研究では、全体テーマ「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」及び高校部会のテーマ「学校の教育活動全体を通して育成すべき『資質・能力』を育むための授業改善と学習評価の充実」に基づき、特別活動において身に付けるべき「資質・能力」とは何か、高等学校における現状の把握、教育研究員高等学校特別活動部会の先行研究等の調査、本部会員の特別活動の実践における課題意識を整理した上で、研究主題を設定した。

2 特別活動における身に付けるべき資質・能力について

平成 30 年 3 月に告示された学習指導要領及び同年 7 月に告示された高等学校学習指導要領解説 特別活動編（以下、「解説」と表記。）において、「特別活動は、『様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体』（解説）であり、『そこで育まれた資質・能力は、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中で生かされていくことになる。』（解説）という特質をもった領域」と示されている。本研究では、解説及び研究員所属校の実態から、今年度の高校部会のテーマに基づいて、特別活動における「資質・能力」を「多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。（知識及び技能）」、「集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）」、「自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）」と整理し、授業改善の充実を図ることとした。

3 高等学校（研究委員の所属校）における特別活動の現状

本研究では、特別活動における「資質・能力」を検討・整理する過程で、多くの学校の特別活動において、「資質・能力」が育まれているかどうかの現状を調査する必要があると考え、各研究員所属校において「現状把握アンケート」を実施し、生徒の状況を確認した。

【表 1】の質問項目①「物事を決める際に、話し合いは役に立つと思いますか」及び②「クラスで物事を決める際に、話し合い活動をしていますか」について、いずれも 95.0%以上の生徒が「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答している。生徒の自由記述をみても、「色々な意見を取り入れられる」「皆と話し合うことで分からないことも解明できる」「迷ったときに誰かの意見を聞くことが大切だから」という意見が多く、物事を決める際には、話し合い活動が有効かつ効果的な手法として認識され、活用されていることや質問項目④「物事を決める際に、すぐに多数決をとることが多いですか」では、66%の生徒が多数

決を用いて、話し合い活動の意見集約や合意形成を行っていることが分かった。

しかし、質問項目⑦「HRの課題を話し合い活動で解決したことはありますか」では、31.6%の生徒が話し合い活動を通して、課題解決したと回答しているのに対し、68.4%の生徒は、課題解決には至っていないとしている。項目③「物事を決める際に、自分の意見を言えていますか」では39.4%の生徒が、質問項目⑥「提案された意見に対して、疑問点を質問したり、反対意見を述べたりすることができていますか」では36.5%の生徒が「当てはまらない・どちらかという当てはまらない」と回答しており、約40.0%の生徒は、話し合い活動の有効・効果的なものとして認識しているが、自分の意見を言ったり、異なる提案された意見に対し、疑問点を提示したりするなどといった、話し合いを深めるような議論をしていない、参加していないことが読み取れた。

【表1】現状把握アンケート結果（抜粋）〔回答 3校 149名〕 (%)

| 質問項目 | 当てはまる | どちらかといえば当てはまる | どちらかといえば当てはまらない | 当てはまらない |
|---|-------|---------------|-----------------|---------|
| ①物事を決める際に、話し合いは役に立つと思いますか。 | 47.3 | 48.4 | 4.3 | 0 |
| ②クラスで物事を決める際に、話し合い活動をしていますか。 | 37.9 | 43.1 | 15.8 | 3.2 |
| ③物事を決める際に、自分の意見を言えていますか。 | 20.2 | 40.4 | 27.0 | 12.4 |
| ④物事を決める際に、すぐに多数決をとることが多いですか。 | 35.1 | 30.9 | 21.3 | 12.8 |
| ⑤話し合いで相手の意見の類似点や相違点を理解することができていますか。 | 31.5 | 56.5 | 9.8 | 2.2 |
| ⑥提案された意見に対して、疑問点を質問したり、反対意見を述べたりすることができていますか。 | 21.5 | 42.0 | 24.7 | 11.8 |
| ⑦HRの課題を話し合い活動で解決したことはありますか。 | 18.4 | 13.2 | 32.9 | 35.5 |

また、本部会員の特別活動の実践における課題意識を整理する過程で、「課題解決や人間関係構築のための合意形成の経験が乏しく、意思決定や合意形成の意義や有用性が見いだせない生徒が多い」、「多様な場面で、自分と異なる考えや立場にある多様な他者を尊重し、認め合いながら、支え合ったり、補ったりして、協働していくことが苦手な生徒が多い」、「身に付けたことが生かされず、達成感や自己有用感を得ることが少ないため、主体的に新たな課題に向かうことができない生徒が多い」ことが挙げられた。

これらのことを踏まえると、特別活動の取組では、話し合い活動を有効合意形成の方法として認識はしているが、クラスや集団内の話し合い活動を深めることや合意形成を図ることができず、話し合いが形骸化している現状があると推測した。

4 研究主題設定の理由

本研究では、アンケート結果の「話し合い活動が効果的に行われていない」という現状から、教員による効果的な働きかけが必要であり、生徒の状況を確認しながら、適切な指導を行うことで、深い話し合い活動を促すことができると考えた。そこで、話し合い活動を生徒任せにせず、生徒が円滑に話し合い活動や行事を進めることができるよう、教員が事前に「ねらい」を明確に示し、「意図的・計画的」に取り組む必要があると考えた。

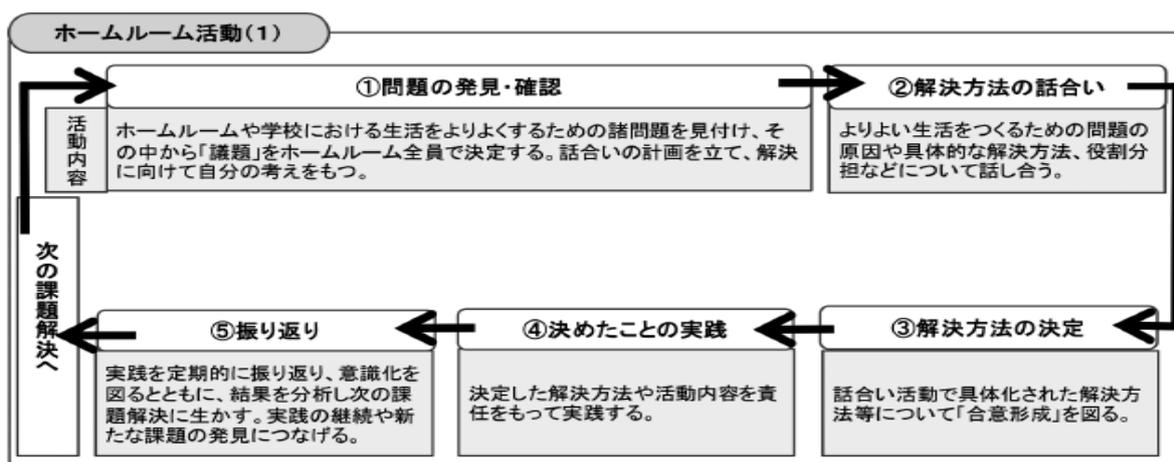
そのため、ホームルーム活動等における生徒相互の話し合いの場を意図的・計画的に設定することで、生徒同士の話し合い活動が曖昧な状態で終わることなく、グループ・学級内にお

ける意思決定・合意形成が円滑に図られると想定し、本研究の研究主題を、「意図的・計画的な話し合い活動を図る取組と評価の充実 ～集団活動の中で資質・能力を育むための意思決定と合意形成～」と設定した。

Ⅱ 研究の視点

本研究は、話し合い活動における生徒の「個人の意思決定」及び「集団としての意思決定（合意形成）」が重要であると考えた。

ホームルーム活動で育成することを目指す資質・能力は、「【図1】ホームルーム活動（1）における学習過程（例）」（解説）の「①問題の発見・確認（生徒会活動は「問題の発見・確認、議題の設定）」、「②解決方法の話し合い」、「③解決方法の決定」、「④決めたことの実践」、「⑤振り返り」という学習過程の中で育まれる。生徒を主体的にホームルーム活動（生徒会活動）に取り組みさせるためには、教員が、自治的なホームルームや学校の生活づくりを実感できるような一連の活動の中で、時機を捉えて的確にサポートし、育成する資質・能力を意識して指導に当たることが大切である。



【図1】ホームルーム活動（1）における学習過程（例）

高等学校における特別活動の場合、小・中学校の特別活動とは異なり、生徒の自主性・主体性を重視することが多くなり、生徒と教員との関わりが希薄になっていく傾向がある。そのため、【図1】の「②解決方法の話し合い」や「③解決方法の決定」が、個人の意思決定及び集団の意思決定が十分に行われないうまま解決方法が決定され、その後の学習過程「④決めたことの実践」に大きな影響を与えることとなる。

小・中学校時代にリーダー的役割を果たし、自らの意見を積極的に話す生徒が多いグループ、クラスや学校では、話し合い活動が効果的に行われることが多く見られる一方で、このような体験・経験が少ない、自己肯定感の低い生徒が多いグループ、クラスや学校では、どのように話し合い活動を展開していけばよいか分からず、話し合い活動が十分に行われないうために課題解決に向けた取組が上手くいかない場面が見られる。このような場合は、課題に向けた話し合い活動において、クラスの中で発言力のある生徒の意見が先行し、安易に多数決で決定され、合意形成が上手く図られないまま物事が進むことがある。その後の活動の中で齟齬が生じ、軌道修正しようにも收拾がつかず、課題解決に至らないことが多く見られる。

そこで本研究では、【図1】の学習過程の「②解決方法の話合い」や「③解決方法の決定」に重点を置き、個人が意思決定し、よりよい合意形成を図るために具体的な研究の視点として、「教員が意図的・計画的に、課題解決に向けた話合いの目的を明確に示し、目的に沿って見通しを立てた話合い活動を展開すること」「到達目標を達成することができる進行や発言ができたかなどの『小さな振り返り』重視した話合い活動を行うこと」とした。

Ⅲ 研究仮説

グループやクラスにおける話合い活動が個人の意思決定や集団による合意形成が不十分な状態のまま、生徒の活動が決定実行されることが多い。クラスや委員会での合意形成ができず、特別活動における「資質・能力」の育成を行うことができていなかった。このことを解決するためには、育成すべき「資質・能力」を育むための授業改善を行うことが必要であり、「小さな課題」の解決（問題の確認・振り返り）を充実させることにより達成できると考えた。

以上のことから、①実践に至るまでの見通しを立てること、②「問題の解決」「振り返り」を重視した話合い活動を推進することの2点に取り組むことで、円滑な話合い活動が展開され、合意形成が図られるのではないかという理由から、本研究は「実践に至るまでの見通しを立て、『問題の解決』『振り返り』を重視した話合い活動ができれば、意思決定や合意形成の必要性が理解できるようになる。」と仮説を立てた。

Ⅳ 研究方法

1 具体的方策

以下の5点を取り入れて、授業改善と学習評価の充実を図り、成果と課題をまとめる。

- (1) 個人の意思決定までの過程を大切にする（ワークシートを活用し、情報を集めたり、整理をしたりする時間をつくる）。
- (2) 各回の話合い活動について、目的、注意事項、到達目標を進行役の生徒と教員で計画を立てる。
- (3) 話合いの目的を明確化して、その目的に沿った話合い活動のシナリオを作成する。
- (4) 話合い活動について、到達目標を達成することができる進行や発言ができたかの振り返りをする。
- (5) 振り返りの評価や観点を明確化する。

2 検証方法

仮説を検証するために、具体的方策を踏まえ指導案を作成し、一つの単元を通じて授業改善を行い、その前後で生徒がどのように変容したかを、以下の2点に着眼し検証を行う。

- (1) 話合い活動の進行や生徒の発言等の観察による検証を行う。
- (2) 生徒の振り返りシートへの記載により、特別活動の資質・能力の向上について検証する。

研究構想図

全体テーマ 「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」

高校部会テーマ

「学校の教育活動全体を通して育成すべき『資質・能力』を育むための授業改善と学習評価の充実」

特別活動における「資質・能力」について

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

高校部会テーマにおける各教科等の【現状】と【課題】と【テーマ設定のための着眼点】

【現状】

- (1) 課題解決や人間関係構築のための合意形成の経験が乏しく、意思決定や合意形成の意義や有用性が見いだせない生徒が多い。
- (2) 多様な場面で、自分と異なる考えや立場にある多様な他者を尊重し、認め合いながら、支え合ったり、補ったりして、協働していくことが苦手な生徒が多い。
- (3) 身に付けたことを生かしきれず、達成感や自己有用感を得ることが少ないため、主体的に新たな課題に向かうことができない生徒が多い。

【課題】

- (1) 課題解決をしたり、人間関係を構築したりしていく中で、意思決定や合意形成の意義を理解できる実践の場を設定する必要がある。
- (2) 自他の可能性やよさを発揮しながら、課題解決に向けた合意形成を図る取組が必要である。
- (3) 達成感や自己有用感を高め、自ら新たな課題に取り組もうとする態度を育む必要がある。

【テーマ設定のための着眼点】

意思決定や合意形成を図る話し合い活動を生徒に意図的・計画的に取り組ませることにより、達成感や自己有用感を育み、特別活動の資質・能力の向上を図る授業改善とその評価方法等に着眼する。

高等学校特別活動部会主題

意図的・計画的な話し合い活動を図る取組と評価の充実
～集団活動の中で資質・能力を育むための意思決定と合意形成～

仮 説

実践に至るまでの見通しを立て、「問題の確認」、「振り返り」に着眼した話し合い活動ができれば、意思決定や合意形成の必要性が理解できるようになる。

具体的方策

- (1) 個人の意味決定までの過程を大切にする。
(ワークシートを活用し、情報を集めたり、整理をしたりする時間をつくる。)
- (2) 各回の話し合い活動で、目的、注意事項、到達目標を進行役の生徒と教員で計画を立てる。
- (3) 話し合い活動の目的を明確化して、その目的に沿った話し合い活動のシナリオを作成する。
- (4) 話し合い活動で到達目標を達成することができる進行や発言ができたか振り返りをする。
- (5) 振り返りの評価の観点を明確化する。

検証方法

- (1) 話し合い活動の進行や生徒の発言等の観察による検証
- (2) 生徒の振り返りシートへの記載により、特別活動の資質・能力の向上について検証

V 研究内容

1 A 高校（全日制・総合学科）

| 教科名 | 特別活動 | 科目名 | ホームルーム活動 | 学年 | 第3学年 |
|-----|------|-----|----------|----|------|
|-----|------|-----|----------|----|------|

(1) 単元名

ホームルーム活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

(2) 学校の目標

自ら学ぶ意欲と社会を視野に、自己実現を目指す意欲を育てる。

自尊意識を育むとともに、他者を理解し容認する心を育てる。

(3) 領域の目標

ア 知識及び技能

多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

イ 思考力、判断力、表現力等

集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

ウ 学びに向かう力、人間性等

自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

(4) 単元の目標

ア 知識及び技能

ホームルームや学校における集団活動や主体的かつ自律的な生活を送ることの意義を理解し、そのために必要となることについて理解し、身に付けるようにする。

イ 思考力、判断力、表現力等

ホームルームや学校及び自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

ウ 学びに向かう力、人間性等

ホームルームや学校における集団生活を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、その実現に向けて、主体的に日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

(5) 領域の評価規準

| ア 知識・技能 | イ 思考・判断・表現 | ウ 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| ①多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 ②自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 ③よりよい生活や社会を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。 | ①所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。 | ①生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 ②主体的に人間としての在り方生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。 |

(6) 単元の指導と評価の計画（3時間扱い）

| 時間 | 学習活動 | 評価の観点 | | | 評価規準 (評価方法など) |
|-------------|-----------------------------|-------|---|---|---|
| | | ア | イ | ウ | |
| 第1時 | ・第1回進路説明会 | ● | | | 進路決定までの方法や流れを理解している。 (ワークシート) |
| 第2時 | ・第2回進路説明会 | | ● | | 進路に関する情報収集をし、それに基に進路決定を行っている。(観察、ワークシート) |
| 第3時 (本時) | ・自己を見つめ、今後の生活での明確な目的や目標を持つ。 | ● | ● | ● | 現在の自己を振り返り、将来に対しての目的や目標をもつことができる。(ワークシート) |

(7) 本時（全3時間中の3時間目）

ア 本時の目標

(ア) 現在の自分と将来像を明確にすることで、上級学校での目的・目標をもつ。

(イ) 職業観についての考えを深める。

イ 仮説に基づく本時のねらい

意思決定（進路決定）までの振り返りを行うことで、今後の見通しを立てることができ、主体的に自己実現、社会参画しようとする態度を養うことができる。

ウ 本時の展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・方法 |
|-----------|--|---|---|
| 導入 5分 | 【本時の目標の確認】 【小・中学校を振り返る】 | ・活動の目標を明確に理解させる。 | |
| 展開 40分 | 【現在の自分を振り返る。】 進路や興味・関心等があることを記入する。 【働く意味について考える】 ①人は何を目的に働いているのかをワークシートに記入する。 教員の説明を基にワークシートをまとめる。 ②社会で生きる人々それぞれが大切にしていることについて考える。 【上級学校での目標・目的を考える】 ①自己の振り返りを基に、社会問題や興味・関心のあることに対して、将来何ができるかを記入させる。 ②将来すべき、したいことをするために、何が必要か、上級学校で何をすべきかを記入する。 ③他者の記入した内容に対して、一言コメントを記入する。 | ・机間指導により、ワークシートを記入できていない生徒には個別で指導する。 ・グループで共有することで、個人の目的だけではなく、自己や社会とのつながり等、様々な目的があることに気付く。 ・各グループの意見を集約しつつ、まとめていく。 ・付箋に記入させることで、グループでできるだけ多くの意見を出させる。 ・机間指導により、ワークシートを記入できていない生徒には個別で指導する。 ・コメント記入の際には、批判的な内容を記入しないように指示する。 | ア-② (ワークシート) 自己を見つめ直している。 イ-① (観察) 他者の考えを受け入れたり、自分の意見を伝えたりしている。 ウ-② (ワークシート) 主体的に人間としての生き方について考えている。 |
| まとめ | 【目標再確認と振り返り】 他者の意見を受けて、再度目標を確認し、自分の考え、思いをまとめる。 | ・自己の振り返り、他者の意見の重要性を理解させる。 | ウ-② (ワークシート) 主体的に自己実現しようとしている。 |

(8) 本時の振り返り

対象クラスは、検証授業の段階で70%近くの生徒が、進路決定をしている（全ての生徒が進学を希望である）。検証授業実施前の生徒の将来に対する意識調査の中で、「上級学校卒業後、社会参画・貢献をしたいという思いはあるか」という項目について、42%の生徒が「ある」と回答している。また、「ある」と答えた生徒の中にも「社会に貢献したいという思いはあるが、具体的に何をしたらよいかわからない」という意見もあった。さらに「進路が決定してから、将来のためにあなたがやってきたことを記入してください」という項目に、記

入できた生徒は24%であった。これまでの自身の意思決定や自己について、理解を深めることができれば、将来を見据えることができ、上級学校進学後も主体的に自己実現、充実した学びのために活動できると考えた。

ア 授業の様子

(7) 現在の自己を振り返る

【資料1】のワークシートを用いて、進路決定（意思決定）をどのように行ったかを振り返った。

【資料1】ワークシート

生徒の日頃の様子等を考慮し、ワークシートの質問項目は細かく分け、なおかつ単語や短文で回答できるものにした。そのため生徒は回答しやすく、しっかりと振り返ることができたのではないかと、生徒の取組の様子やワークシートから見て考えられる。またアイスブレイクとして、小中学生のことも振り返ることで、楽しさを感じながら活動できただけではなく、変化に気が付くことができた生徒もいた。

(1) 働く意味について考える

対象クラスは、「話し合い」に対して苦手意識をもっている生徒が非常に多い。その原因として、「自分の意見をもつ」ということができているためであると考えた。そのため今回は職業観を深める際に、穴埋め形式のワークシートや付箋を用い、話し合いまでの準備を十分に行えるようにすることで、生徒各々が自己の意見をもてるように工夫した。話し合いでは、自分の意見を他者に伝える様子や、相手の意見を積極的に聞く様子が見られた。他者の意見を共有することの必要性や、新たな考え方に触れる楽しさを実感できることができたので、この体験を積み重ね、活発な話し合いを行えるようにしたい。

イ 検証授業のワークシートの記述

(7) 「5 あなたが進学先で、もしくは今から何をすべきか考えてみよう！」への自由記述
これまでと現在の自己や意思決定を少しずつ振り返り、「働くこと」について理解を深めたことで、多くの生徒が自己と希望進路を結び付けることができ、将来がより具体的に

イメージできたと考えられる。振り返りのアンケート「③自分にこれから必要なことが分かった、考えることができた」という項目に対して「はい」と回答した生徒は 92.0%であった。また、【資料 2】にあるように、96.0%の生徒が「今後やるべきこと、必要なこと」について記述することができていたことから、授業前と比較して考えを深めることができたことが分かった。これまで考えなかったことを考え、気が付けなかったことに自らが付けこめて、今後将来に向け、生徒が主体的に活動していくことが期待できる。

【資料 2】 「5 あなたが進学先で、もしくは今から何をすべきか考えてみよう！」への自由記述

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを大切にする。 ・福祉の勉強、ニュースを見る。 ・子供についてもっと知る。 ・必要な資格を取る。 ・パソコンの技術を向上させる。 ・専門的な内容を勉強する。 ・多くの作品（本・映画・美術館・舞台など）を観る。 ・色々な人に、スポーツに興味をもってもらうために行動する。 ・外の世界にさらに進出して、たくさん結果を残す。 ・必要ではないと思うことでも、知ろうとする心をもつ。 ・たくさんの経験を積んで、自分ができるスキルを増やしていく。 ・写真の本を見て、機能を理解する、他の人の写真を見て構図の参考にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人（子供）とたくさん関わる。 ・社会の問題への理解を深める。 ・子供を育てる親が悩んでいるのかを知る。 ・人の気持ちを考える。 ・興味のあることに対して探究心をもち続ける。 ・常に最新情報を取得する。 ・優しい、広い心をもつ。 |
|--|---|

(イ) 「振り返りのアンケート 感想」への自由記述

高等学校でのホームルーム活動では、話し合いをする機会や自己についての理解を深める機会が小・中学校と比較して圧倒的に少ない。学校によって違いはあるが、本校では授業中の様子を観察している中で、話し合いに上手く参加できない生徒や、苦手意識をもっている生徒が多いと感じた。しかし、【資料 3】「授業後の感想」から分かるように他者と意見を共有することに対して、楽しさや必要性を感じている生徒もいる。ワークシート等を用いて、話し合い活動前に個人の考えをまとめ、意思決定する時間を設けることが、充実した話し合い活動、生徒一人一人にとって実りのある活動になると考えられる。

今後、全ての生徒が高等学校在学中に、話し合いの必要性を理解し、充実した話し合い活動ができるようにすべきである。そのために特別活動の中で、円滑な話し合い活動が行えるよう教員が事前に様々な仕掛けをする（自己決定を行わせる等）、そして話し合いの場を設け、振り返りまでを丁寧に行うといった改善が必要である。

【資料 3】 「振り返りのアンケート 感想」への自由記述

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・改めて色々考えることができた。 ・普段あまりこのようなことを考えないので、楽しかった。 ・今回書いたことを実行できるようにしたい。 ・普段話さない人の意見を聞くことができた。 ・以前は抱いていた大切なものを思い出した。 ・自己と進路をまだ結び付けることができなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・努力し続けたい。 ・自分がどんな人なのか分かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・有意義な時間になった。 |
|--|---|--|

2 B 高校（中等教育学校）

| 教科名 | 特別活動 | 科目名 | 生徒会活動 | 学年 | 第1学年～第6学年 |
|-----|------|-----|-------|----|-----------|
|-----|------|-----|-------|----|-----------|

(1) 単元名

生徒会活動 (1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営
 学校生活を充実させるための委員会活動 ～放送委員会の活動の活性化～

(2) 学校の目標

6年間の中高一貫教育を通して、他者を思いやることのできる豊かな心を持ち、「胸は祖国に置き、眼は世界に注ぐ」の精神の下、国際社会で日本の良さを語り、人間性豊かな社会を構築する「思いやり・人間愛を持った社会的リーダー」の育成を図る。

(3) 領域の目標

※「1 A高校と同じ」

(4) 単元の目標

ア 知識及び技能

民主的かつ自治的組織である委員会の活動の意義について理解するとともに、その活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けるようにする。

イ 思考力、判断力、表現力等

委員会活動を通じて、学校全体の生活をよりよくするための課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成や意思決定することで、よりよい人間関係を形成することができるようにする。

ウ 学びに向かう力、人間性等

自治的な集団における活動の中で身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や社会におけるよりよい生活づくりに参画しようとする態度を養う。

(5) 領域の評価規準

※「1 A高校と同じ」

(6) 単元（題材）の指導と評価の計画（5時間扱い）

| 時間 | 学習活動 | 評価の観点 | | | 評価規準 (評価方法など) |
|-------------|-----------------------|-------|---|---|---|
| | | ア | イ | ウ | |
| 第1時 | ・撮影、編集計画の検討 ・担当係決め | ● | | | 撮影計画に関して、自分の考えを具体的に表現している。 (ワークシート) |
| 第2時 (本時) | ・撮影案の検討 | ● | ● | ● | 撮影案に対して、疑問点を質問しながら、積極的に議論を活性化させている。(観察・自己評価シート) |
| 第3時 | ・撮影、編集スケジュールの決定 | | ● | ● | スケジュール決定の際に、情報の収集や整理ができています。 (観察) |
| 第4時 | ・撮影、編集作業 | | | ● | 自己の役割を理解し、他者と協力して撮影や編集活動に取り組んでいる。(観察・自己評価シート) |
| 第5時 | ・反省会 ・次年度への引き継ぎ | | | ● | プロジェクトの課題に対して批判的思考力を持ち、積極的に議論を活性化させている。(観察) 委員会での話し合い活動を通して、自分の成長を感じている (自己評価シート) |

(7) 本時（全5時間中の2時間目）

ア 本時の目標

(ア) 今回の撮影計画の課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成や意思決定することで、よりよい組織作りや人間関係の形成をできるようにする。

(イ) 学校のアピールポイントを検討したり、放送委員会での自己の役割について再考させたりすることで、集団生活の向上に貢献しようとする態度の変容を促す。

イ 仮説に基づく本時のねらい

学校PR動画撮影案の問題点（課題）に着眼した話し合い活動を行うことで、原案よりもよりよい撮影案を作成し、委員会内での組織貢献力や自己有用感を高める。

ウ 本時の展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・方法 |
|-----------|--|--|---|
| 事前 | ・担当教員と進行役の生徒(委員長、副委員長)と打合せを行い、当日の流れを確認する。【委員会の流れを確認】 | ・事前打合せシートを活用し、必要に応じてメモをとらせる。 | |
| 導入 5分 | ・本時の委員会のねらいを共有する。 ・各学年1人ずつ入ったグループを作る(第1学年から第6学年まで1人ずつで縦割りのメンバーを構成する)。 【グループ分け】 | ・各グループの第5学年(高校第2学年相当)の生徒に司会進行役を依頼する。 | |
| 展開 15分 | ・事前役割分担によって作成し、クラウド型学習支援システムに掲載した学校PR動画の撮影案の趣旨等をグループ内でシェアする。【前時までの課題の共有】 ・作成された撮影案について、司会役の生徒の指示で意見を出し合う。【話し合い活動】 | ・事前にクラウド型学習支援システムのコンテンツボックスに作成した資料をアップロードさせておく。 ・低学年からも積極的に発言が出るよう、机間指導を行う。 ・書記役の生徒は、オンライン型一斉提示機能に意見を集約する。 | アー③(観察) 話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。 イー①(観察) 撮影案の問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。 |
| まとめ 5分 | ・自己の意見やグループの意見を簡単にワークシートにまとめ、自己評価を行う。 【ワークシートの記入】 | ・次回の委員会開催について連絡を行う。 | ウー①(ワークシート) 委員会の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 |

(8) 本時の振り返り

ア 異年齢間の交流

委員会活動の活性化のため、中等教育学校の特性を生かし、第1学年(中学校第1学年相当)から第5学年(高校第2学年相当)までの異年齢間での話し合い活動を取り入れた。

そのため、通常の委員会時よりも緊張感をもちながら積極的に意見を出し合うことができ、委員会でのよりよい合意形成や意思決定につながった。また、先輩がファシリテーターとして進行を行うことで、議論がスムーズに進み、後輩たちも自分の考えを積極的に表明できるようになり、単元(領域)の目標であった「よりよい人間関係を形成すること」にもつながったと考えられる。

イ 事前打合せシートの活用

「本時の展開」に記したように、活動の前に、進行役の生徒と打合せを行った。その際、【資料4】「事前打合せシート」を基に進行スケジュールを検討した。

その結果、進行役の生徒(本時の場合は放送委員長・副委員長)に自覚が芽生え、当日の進行もスムーズに行われるようになった。生徒会活動だけでな

【資料4】 事前打合せシート

| 放送委員会 事前打ち合わせシート | | |
|------------------|--|---------------------|
| 今日の目標 | 話し合いを行い、撮影案を出し合う | |
| 日時 | 11/20(水) 15:35~16:00 | |
| 司会 | [黒塗り] | |
| 進行スケジュール | | |
| 時間 | 内容 | 注意事項/Memo |
| 15:35 | ★A組男子・A組女子・B組男子……の順に学年縦割りのグループを8つ作る(グループの進行役は5年、記録は1年) | |
| 15:40 | ★8グループの担当を決める ・オープニング × 1グループ ・授業編 × 2グループ ・学校行事編 × 2グループ ・部活動編 × 2グループ ・エンディング × 1グループ | プリントPCを 残して |
| 15:45 | ★必要な動画素材を列挙し、取捨選択の上、スクリーンにまとめる | 担当役の生徒に と、後輩の意見を |
| 15:55 | ★今後の撮影計画について | |
| 委員会を終えて | | |
| 自己評価 | *スムーズな進行ができた ⑤・4・3・2・1 *活発に議論ができた 5・④・3・2・1 *結論が出せた 5・④・3・2・1 | |
| 反省・感想 引継ぎなど | 時間は今更だ、5年の進行役が8分ほどまとめた | |

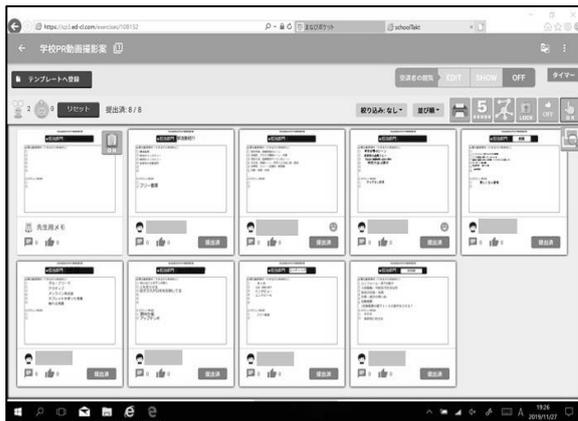
く、HR活動や学校行事においても、事前に代表の生徒と簡単な打合せを行うことが、話し合い活動の活性化につながると考えられる。

ウ ICT機器の活用

本時は普通の授業で活用しているICT機器を活用した。生徒は自分のタブレットPCから意見集約アプリ【資料5】を立ち上げ、グループの意見をまとめた。

その結果、全体での議論の進捗状況が共有できたり、委員長が事後に議論をまとめるときに、全グループの意見を簡単に確認できたりするといった効果があった。（その後委員会で集約した撮影計画が【資料6】である）

【資料5】タブレットによる意見集



【資料6】撮影計画案

| 学校PR動画（案） | |
|-----------------------------------|---|
| テーマ：思いやり・人間愛を持った社会的リーダーを育成する学校とは？ | |
| ターゲット：学校説明会・目標交流・進路展などの外部の来訪者 | |
| オープニング (2:00) | ①校舎風景 ②校長先生挨拶 ③発表風景・グループワーク ④オンライン英会話・JET/AETの授業・目標交流・留学経験者から ⑤電子黒板・タブレット・スクリーンタクト ⑥給食・理科実験・自一人音・少人数授業 |
| 三鷹の1日編 (5:00) | ①アクティブ・ラーニング ②G10(国際理解) ③ICTの活用 ④その他？ |
| 学校行事編 (5:00) | ①二大行事 ②宿泊行事(体験型) ③学年行事(体験型) |
| 部活動編 (3:00) | ①運動部 ②文化部 ③活動風景・ユニホーム・部長インタビュー(一部) ④活動風景・発表会/演奏会・部長インタビュー(一部) |
| エンディング (1:00) | ①生徒の夢 ②ハイライト+ロール ③ボードで学べる一言 ④各シーンの各場面&オレーション・エンドロール |

※必要に応じて制作：「What is 中等教育学校編」(次生徒)面談時「進路展」→1〜2分程度の制作、別添いようご確認の上録画可能。

3 C高校（中等教育学校）

| 教科名 | 特別活動 | 科目名 | 生徒会活動 | 学年 | 第4、5学年 |
|-----|------|-----|-------|----|--------|
|-----|------|-----|-------|----|--------|

(1) 単元名

生徒会活動 (1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営
学校生活を充実させるための委員会活動 ～中央委員会の活動の活性化～

(2) 学校の目標

集団生活での規律を守り、規範意識を育て、社会の一員としての自覚をもたせる。生徒の自治活動を指導・支援し、自治会（生徒会）活動や三大行事の幹部の活動等を主体的に行うように指導する。その結果、生徒に達成感と成就感をもたせ、自主性自律性を育て、リーダーとしての資質を養う。

(3) 領域の目標

※「1 A高校と同じ」

(4) 単元の目標

ア 知識及び技能

学校生活の充実と向上のために、生徒の総意によって目標を設定し、役員選挙等を通じた組織作りや役割分担を行って協働して実行することの意義を理解し、そのために必要な計画や運営、合意形成の仕方などを身に付けるようにする。

イ 思考力、判断力、表現力等

生徒総会や各種の委員会において、学校生活の充実と向上のための課題や生徒の提案を生かした活動の計画について考え、課題解決の方法や役割の決定、その実践に取り組むことができるようにする。

ウ 学びに向かう力、人間性等

集団の形成者として、多様な他者と、互いの個性を生かして協力し、積極的に学校生活の充実と向上に参画しようとする態度を養う。

(5) 領域の評価規準

※「1 A高校と同じ」

(6) 単元の指導と評価の計画（4時間扱い）

中央委員会は学校の課題を見出し、その課題解決に向けて活動している。今回、中央委員会では、「現在の防寒着の規準について改正が必要である」と考えた。そこで、生徒全員にアンケートを取り、それをもとに中央委員で話し合い、意見をまとめ、生活指導部に要望書を提出するまでのスケジュールを立てた。

| 時間 | 学習活動 | 評価の観点 | | | 評価規準 (評価方法など) |
|-------------|---|-------|---|---|---|
| | | ア | イ | ウ | |
| 第1時 | ・発見した問題の解決策の提案の理由を明確化させる。 ・現状把握と情報収集をさせる。 | ● | ● | ● | 情報収集して、個人の意思決定をしようとしている。(観察) |
| 第2時 (本時) | ・生徒大会で全体に防寒着についてのアンケートをすることを伝え、各クラスでアンケートを実施し、集計する。 | ● | | ● | 他者と協力して、課題解決に向けて取り組んでいる。(観察) |
| 第3時 | ・収集した情報を基に意見を発表させる。 ・メリットとデメリットを理解させる。 ・決めたことをどう守らせるかを話し合う。 | ● | ● | ● | 批判的な視点を持ち、積極的に話し合い、よりよい合意形成を図ろうとしている。 (観察・ワークシート) 自己の役割を理解しているか。 (観察・ワークシート) |
| 第4時 | ・全体の振り返り | ● | ● | ● | 委員会での話し合い活動を通して、自分の成長を感じている。 (ワークシート) |

(7) 本時（全4時間中の3時間目）

ア 本時の目標

(ア) 収集した情報を基に個人の意思決定をし、それを表現することができる。

(イ) 発見した問題を解決するための方法や内容を話し合う中で、他者の意見も受け入れつつ、様々な解決方法を模索し、問題を多面的、多角的に考えて合意形成を図れるようになる。

イ 仮説に基づく本時のねらい

実践に至るまでの見通しを立てて話し合いを進めることで、よりよい意思決定・合意形成ができ、その必要性を理解できるようになる。

ウ 本時の展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・方法 |
|----|---|---|---------|
| 事前 | ・担当教員が委員長と副委員長と当日の話し合いの流れについて説明をし、中央委員全員にアンケート結果と事前ワークシートを渡し、自分の意見をまとめてもらった上で委員会に来るよう伝える。 | ・ワークシートにある「なぜ自分はそうしたいのかを突き詰めて意見を構築することが大切である。」ということ伝える。 | |

している生徒がおり、次に行う話し合い活動では、今回の反省を生かしてよりよい話し合い活動ができるのではないかと考える。そして、「自分たちで考えたことなので、変わった場合にはしっかりと全員に守ってもらえるよう働きかけていきたい」といった、自分たちから学校生活における規律を守っていこうという自覚が芽生えた生徒もいた。学校生活をよりよくするための活動を通して、社会の中で求められる権利と義務の関係や責任について学ぶことができた。

ウ 成果の検証

今回、中央委員は学校生活をよりよくするために取り組むべきことを話し合い、合意形成して実践した。生徒がそれぞれの役割を分担し、活動の計画を立てて自主的に実践し、振り返りすることを通して、次の取り組みにつなげたり、次の議題に向かったりする態度を養えたと考える。ただ、高校生といえども、自ら活動の計画を立てて自主的に実践することは容易なことではないので、各回の話し合い活動について、目的、注意事項、到達目標などを進行役の生徒と教員で計画を立てたり、適切な振り返りをさせたりする時間を教員側が確保することが大切である。今回の検証授業において、振り返りの時間を確保することで、特別活動の資質・能力が向上することが確認できた。

VI 研究成果

本研究における仮説実証授業により得られた成果は、以下のとおりである。

1 事前打合せシートによる効果的な話し合い活動の展開

本研究では、教員が意図的・計画的に課題解決に向けた話し合いを行うためには、進行する生徒に対して、話し合いの見通し及び目的を明確化することが重要であるとして「事前打合せシート」を活用した授業準備を行った。見通しを立てて話し合い活動を行う仮説実証授業では、事前に「打合せシート」を活用したことで、スムーズな議事進行がなされ、話し合い活動の活発化及び議論が深化することが、「より良い人間関係を形成することにつながった(B高校)」「進行役生徒に自覚が芽生え、当日の進行もスムーズに行われるようになった(B高校)」「円滑に一人一人の意見を発表することができ、意見を共有することができた(C高校)」などの振り返りにより示された。

これらのことにより、事前打合せシートが話し合い活動の展開に効果的であり、主体的かつ意欲的に話し合い活動に取り組ませることができ、クラスや委員会内の合意形成を行うための資質・能力が育まれたと考えられる。

2 ワークシート及び振り返りシートの活用による意思決定と合意形成

ワークシートを効果的に活用することで、話し合い活動によって得られた情報を適切に整理・分析できるようになった。ワークシートの活用は、個人の意思決定の重要性を再認識させるとともに、集団での合意形成を効果的に行うことができた。ホームルームや学校の生活を向上させるための課題を「自分事」として捉えさせ、「問題の解決」や「振り返り」を重視することで、円滑な話し合い活動が展開され、合意形成が図られたと考える。また、社会参画・貢献意識が低い生徒が多いとの事前調査結果がみられたA高校での取組事例では、ワークシートの質問項目を生徒の実態に合うよう項目を適宜整理し、効果的な話し合い活動を展開する

仮説実証授業を行った結果、自己の意思決定の大切さや自身の変化にも気付くことができた。授業後の振り返りシートからは、将来を見据えた活動への決意表明や、社会参画・貢献意識の高揚に繋がる記述内容が多く見られ、個人の意思決定に至る過程を大切にすることの重要性を再認識することができた。

また、C高校の振り返りシートの自由記述からは、「もっと自分の意見を深めておくべきだった」「自分と反対の意見を尊重し、傾聴する必要性があった」との意見もあり、今回の話し合い活動の活動を振り返りつつ、反省をしっかりと行う生徒の記述も多く、話し合い活動の大切さを理解し、仮説にある「問題の確認」及び「振り返り」に着眼した話し合い活動を展開しようとする事例も見られ、円滑な話し合い活動を通して、個人の意思決定に基づいた合意形成がなされたと考える。

3 クラウド型学習支援システムの活用

今回、B高校での仮説検証授業では、クラウド型学習支援システムによる話し合い活動の展開に取り組んだ。活用方法として、事前にクラウド型学習支援システムコンテンツボックス内に資料を提示し、話し合い活動の進め方や合意形成の図り方についての意思疎通を図り、話し合い活動時には、書記役生徒によるオンライン型一斉提示機能を活用した意見集約など、限られた話し合い活動の時間を有効かつ充実したものとするよう、効果的に活用した。

今後、クラウド型学習支援システム使用環境が整備されていくことで、このシステムを活用しての話し合い活動の活発化につながっていくのではないかと考える。

VII 今後の課題

本研究における仮説実証授業により得られた課題は、以下のとおりである。

1 特別活動における「評価」の在り方及び「授業改善」について

本研究の仮説実証授業を行うにあたり、評価の観点及び評価規準について検討を行い、評価の観点の明確化を行ったものの、新学習指導要領に基づく特別活動の評価について検討・整理が不十分であった。授業改善を進めるにあたり、教員が話し合い活動について到達目標を達成することができる進行や発言ができたか、生徒がしっかりと「振り返り」をするための時間を確保することができたかなどを含めた授業計画の見直しや、公正かつ正当に評価をするためのルーブリックの作成等を検討する必要がある。その際、特に各学校の生徒の実態に合った評価方法について検証する必要がある。

2 継続した研究の必要性について

本研究は、単年度での研究活動であり、高校3年間（中等教育学校は6年間）という長期的なスパンに立った仮説検証ができないという制約がある。そのため、高校3年間（6年間）の活動を見据え、各学校のグランドデザインに基づいた、評価方法及び特別活動計画を策定し、効果的な話し合い活動が展開できるための取組を重点的に行える長期的な視野に立った継続的な研究を行う必要がある。

平成 31 年度 (2019 年度) 教育研究員名簿

高等学校・特別活動

| 学 校 名 | 職 名 | 氏 名 |
|---------------|-----|----------|
| 東京都立荒川工業高等学校 | 教 諭 | 米 谷 友 規 |
| 東京都立荒川工業高等学校 | 教 諭 | 佐 藤 壮 悟 |
| 東京都立桜修館中等教育学校 | 教 諭 | 中 山 直 人 |
| 東京都立三鷹中等教育学校 | 教 諭 | ◎高 田 直 人 |
| 東京都立町田総合高等学校 | 教 諭 | 近 美 咲 |

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
統括指導主事 森田 常次

平成 31 年度 (2019 年度)
教育研究員研究報告書
高等学校・特別活動

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849